

十月一日

昨夜はカンボジア王国プノンペン市の小笠原さんと新宿で会食。小笠原氏のカナダ政府への提案書を見せられた。ワールドツアー開催概要というもので、要するに地雷で体に障害を持ってしまった人々が隊をなして手押しの改造自転車世界を巡り地雷絶滅を訴えてゆこうというものだ。何故カナダ政府かと言えば一九九七年のオタワ条約の調印に由来するのだと言う。オタワ条約とは対地雷禁止条約である。それ故小笠原氏のワールドツアーは先ずオタワを出発点にするらしい。これは一九六〇年代来の日本のヒッピー達がかんりの数で支援しようではないかと準備を重ねているようだ。年を取った元ヒッピー達の人生の旅のしまいの旅の趣がある。

話を聞いている内に余計なお世話心が動いてしまい、大学の研究室を事務局にしましょうかという事になってしまった。それで何だか良く解らぬママに今日から研究室はFFCワールドツアーの実行委員会の事務局になってしまった。FFCは「飛ぶ車椅子」財団の略である。プノンペン市の日本語学校が本拠地で石山研究室が東京事務局という事になるのだろうか。FFCワールドツアー開催の概要を知りたい人は私のホームページのワークフォーマイノリティーの項をクリックしてもらえば概要を提示しておくので大方を知る事も出来るだろう。

来春のカトマンドウ、キルティプール保存修復ワークショップ

に関してはネパールから時々連絡も入るようになって、ジェニーやトラチャン達まだ会っても居ない人々と知り合いになり始めている。キルティプール市長ともアレレンジが進み始めている始末である。かくの如き事態を楽しむべきか、ソツとしておくべきかいささか悩むところではあるが、どのみちなるようにならぬ事になってしまふのだろうか。これ迄の私の犯してきた数々の徒勞の歴史がそれを予測させる。何故、余計なお世話の道を絶てぬのだろうか。身をほろばしかけているのに止められぬお世話とは何なのか。

しかし、これだけは言っておかねばならぬが、私のところを六〇年代の元ヒッピーのたまり場にする積りは毛頭ないのでそれだけは誤解のないように。事務局は対外交渉の諸々の手続き連絡はするけれど他はやりませんからね。念のため。

年末のプノンペンのひろしまハウス。レンガ積みツアーの後、十二月末には小笠原さんも同行してカトマンドウに行く事になったけれど、どうなる事やら。

十三時大学。カナダ国籍中国人と会う。その後雑用。十七時前大学本部へ。沖繩の件相談。西谷学科主任と新宿で会食。台風到来の中世田谷へ戻る。スタッフ三名程残っていた。明日は台風一過の快晴になる模様。